

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

卒業生へ贈る言葉（Ⅲ）

平成29年度卒業生へ

(平成30年3月6日発行 学校だより第39号より)

第37号からのつづき

【自転車から学ぶ人生哲学】

特に冬は自転車に乗るにはたいへん勇気がいらします。木枯らし舞う窓の外の風景を眺めていると「寒いから今日は自転車に乗るのはやめておこう」という気持ちがわき起こってきます。その気持ちに負けず自転車に乗って家に帰ってきた時は、サウナに入った後のように体がポッカポッカになっており、「寒かったけれど乗ってよかった」という充実感に浸ることができます。

また、家から武庫川の河川敷を下り海釣り公園まで行き、また、逆に武庫川河川敷を上流へ上り、宝塚市役所まで来た時にいつも迷うことがあります。家は山の中腹にあるため、いつも最後は坂を上らなければ帰れません。帰り道には2通りあるのですが、短距離の坂を上がるか、それとも遠回りして長距離の坂を上がるか、いつも迷ってしまいます。「今日はしんどいから、短い坂を上がろう」とか「今日は頑張って走ってきたから短い坂でもいいか」など、楽をしようとする心と「いやいや、最後までしんどい長い坂を上ってこそ、今日走ったことの意味がある」というしんどいことをする心が心の中で戦いま

す。楽をしようとする心に打ち勝ち、長い坂を登り切って家に着いたときは、しんどかったけれど「やりきった」というたいへんな充実感があります。考えてみると、走り終わった後に「やっぱり長い坂を上っていたらよかった」とか「弱い心に負けてなかったら達成感が得られていたのに」など、悔やむことがないからだと思います。これからも、弱い心と強い心が心の中で戦い、人生の中で選択を迫られることがあると思います。その時には、いつも強い心が勝つように、「しんどいこと」を選択するように、生きていきたいと思います。

私は時間があれば武庫川河川敷の自転車専用道路を自転車で走ります。自転車に乗るのに最適な春や秋もあれば、気温が30℃を超える夏や気温10℃以下の寒風突き刺す冬もあります。春や秋でも逆風の中を走らなければならないときがあったり、夏には炎天下に倒れそうになりながら走ったりするときもあります。でも、やはり一番厳しいのは冬です。耳や手足の指先から寒風が熱を奪っていき、しばらく走っているとしびれ、痛さを通り越して感覚がなくなっていくます。武庫川河川敷は冬には強い北風が吹きます。南に下り海へ行ってからの帰り道は、冷たく強い北風の吹く中、上り道を北へ自転車をこがなくてはなりません。ペダルを強く踏んでも強い

～裏面へ続く～

北風に押し戻され、思うように自転車は進みません。
あまりのしんどさに「こぐのをやめて休憩しよう」
と思うこともしばしばあります。しかし、このよう
に冬のたいへんなしんどさやつらさを経験している
と、他の季節の逆風程度ではしんどさを全く感じな
くなります。人間はしんどいことやつらいことを乗
り越えた経験をたくさんしていると、少々のこと
ではへこたれなくなると思います。しんどいことを経
験すると「人生の物差し」はどんどん長くなってい
きます。物差しが長いと、少々のしんどいことも「あ
のときの苦勞に比べれば、まだまだ今回のしんどさ
は楽だ。限界（「人生の物差し」の長さ）までだい
ぶあるな。今はまだ限界の60%くらいだ」とポジ
ティブに考えられるようになり、乗り越えていくこ
とができるのです。よく、「若い時にしんどいこと
は買ってでもしろ」といわれます。しんどいことを
若い間にたくさん経験し、少々としんどさでは弱音を
吐かない「強い心」つまり、長い「人生の物差し」
をつくってほしいものです。



ホームページを日々更新中！！